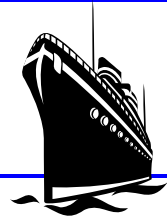


MSI Marine News

トピックス

海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)

45 フィートコンテナの現状について

日本の港湾における 2011 年（1 月～12 月）の外貿コンテナ取扱貨物量は、過去最高の 1,751 万 TEU（※）となりました。日本国内で主に流通しているコンテナは 20 フィート（以下 ft）コンテナ、40ft コンテナですが、他国では 45ft コンテナの利用も広がりを見せています。今回は、45ft コンテナの現状についてご紹介します。

（※）Twenty-foot Equivalent Units=20ft コンテナ換算

1. 45ftコンテナの概況

国際海上コンテナのサイズは ISO（国際標準化機構）によって規格化されています。1960 年代後半に 20ft コンテナ、40 ft コンテナのサイズが規格化され、その後 1993 年には従来の 40 ft コンテナより 1ft 高さの高いハイキューブコンテナ（背高コンテナ）が、2005 年には 45 ft コンテナ（背高コンテナ）が ISO 規格化されました。

45 ft コンテナは、40ft コンテナと比べて約 27%、40 ft ハイキューブコンテナと比べて約 13%積載容積が大きく、最大総質量は変わらないため、主に重量の軽い荷物、例えばプラスチック・アパレル・タイヤ製品等の輸送に適していると言われています。

2. 45ftコンテナを巡る日本での動き

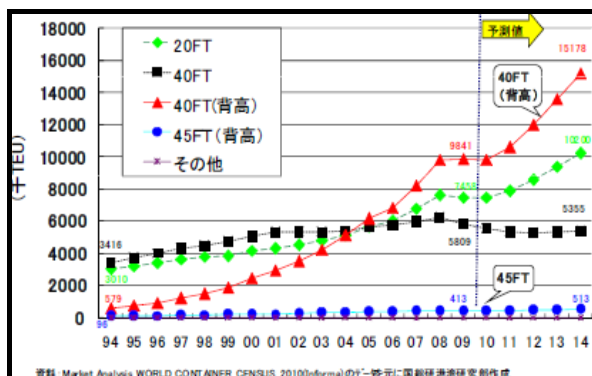
20 ft コンテナ、40 ft コンテナは日本国内での陸上輸送が認められており、40 ft ハイキューブコンテナについても 1985 年の道路交通法改正によって通行ルートを限定するなどの条件付で国内輸送が認められるようになりましたが、45 ft コンテナについては公道走行が認められていません。

こうした中、45ft コンテナの公道輸送実現を目指し、2010 年から 2011 年にかけて宮城県で国内輸送の実証実験が行われ、2011 年 3 月に宮城県全域が「みやぎ 45 フィートコンテナ物流特区」として認定されました。これにより、同県全域において特殊車両通行許可の基準が緩和され、40ft コンテナと同等の通行条件で 45ft コンテナの輸送が可能となりました。その後東日本大震災により運用開始が遅れていましたが、同年 9 月より公道輸送と仙台塩釜港からの輸出が開始されています。

3. 世界での状況

米国、中国、韓国、タイ、香港、台湾、シンガポール等では 45ft コンテナの国内陸送が可能となっています。40 ft ハイキューブコンテナが 1993 年に ISO 規格化されて以降、急激に増加した事実もあり、単純な比較はできませんが、今後 45 ft コンテナも徐々に増加していくものと考えられます。

【国際海上コンテナの国際シェアの推移】



【主な国際海上コンテナのサイズ】

規格	20ft	40ft	40ft背高	45ft
サイズ(m) (H×B×L)	2.591 × 2.438 × 6.058	2.591 × 2.438 × 12.192	2.896 × 2.438 × 12.192	2.896 × 2.438 × 13.716
最大総質量 (t)	30.480			30.480
最大積載 質量(t)	28.080	27.610	27.480	26.530
純積載容量 (m ³)	33.1	67.3	76.0	85.6

（参考）国土交通省HP <http://www.mlit.go.jp/>、ジェトロHP <http://www.jetro.go.jp/index.html>、
宮城県HP <http://www.pref.miyagi.jp/>